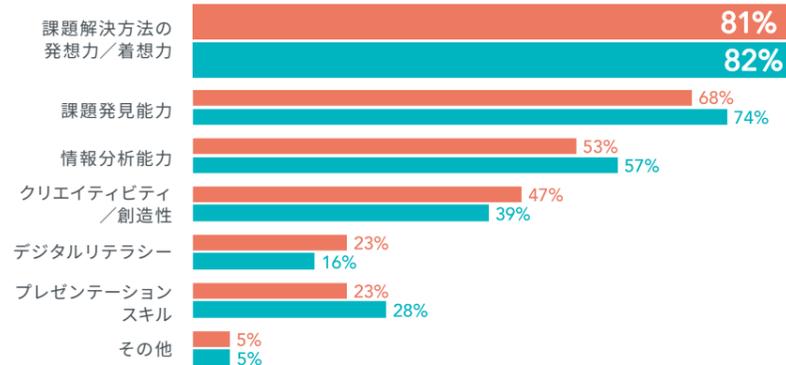


アドビが2018年に日本で実施した調査「新卒採用で企業が重視するスキルについて」によると、これからの人材には「課題を発見し解決方法を考える能力（創造的問題解決能力）」が求められています。そのために学校時代に様々な機会を、課題を発見し解決方法を設計（デザイン）する力や、デジタルツールを活用してアイデアや考えを人にわかりやすく伝える力を学ぶことがとても大切です。

■ 就職人気企業 (n=137) ■ それ以外の企業 (n=399)

01 企業が新卒採用の際に最も重視するスキルは『課題解決方法の発想力／着想力』

新卒採用で重視するスキル（上位3つを選択）



問題意識を持ち、自ら解決する能力をつけて欲しい

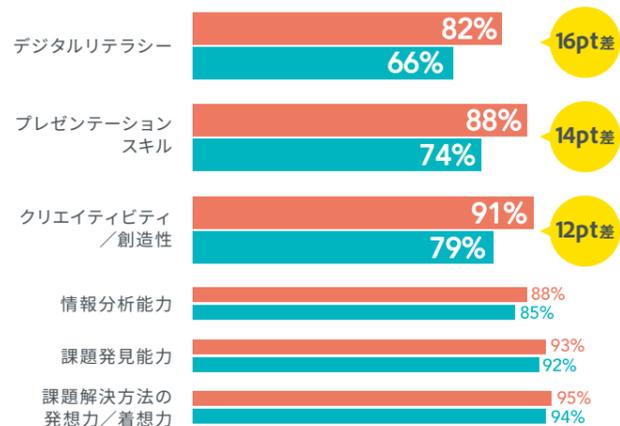
自ら考えて行動できることが大切

社会の課題を自ら考え解決策を自分なりに考え出す力がほしい

自分で課題を発見して、解決方法を考える能力は重要

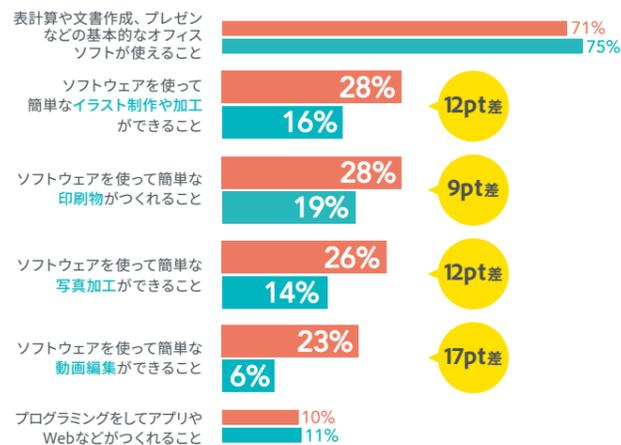
02 就職人気企業では「創造性」「デジタルリテラシー」「プレゼンテーションスキル」を重視する傾向が顕著です

新卒採用で重視するスキル（「非常に重視する」「重視する」「やや重視する」）



03 デジタルリテラシーとして、基本ソフトの習熟は当然必要である上で、就職人気企業では動画編集や写真加工などのスキルも必要とされています

会社で必要とされるデジタルリテラシー



調査概要

- 2018年6月実施、インターネットによるアンケート調査
 - 日本に所在する企業の人事部所属、新卒採用業務担当者536人を対象に実施
 - 東証一部上場企業人事担当194人、過去3年間に就職人気ランキングにランクインしたことがある企業137人を含む
- 調査について詳しくは ▶ <https://adobe.ly/32pTPK1>

アドビ システムズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp/

このカタログに記載の情報は、2020年5月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe Premiere Pro, Adobe Spark, Adobe XD, Creative Cloud, the Creative Cloud logo, Dreamweaver, Illustrator, InDesign, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2020 Adobe. All rights reserved. ASJST1694 5/20

Creative Cloud小中高校向けに関するお問い合わせは



予測不可能な未来に向けて、いま取り組むべき教育課題

2037年までに自動化される可能性がある仕事

2030年に存在するであろう仕事のうちまだ存在しない仕事

47%

85%

※「THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?」より

※「The next era of human|machine PARTNERSHIPS」より

AI（人工知能）やIoTなど様々な技術の発展により、社会は目まぐるしく変化を続けています。

社会が変化すれば、求められる人材や必要なスキルも変化します。

この先20年の間に半分近い仕事がAIやロボットにとって代わり、またそれ以上に新たな仕事が生まれると言われています。

こうした変化に対応できる力を持った人材を育成するために、

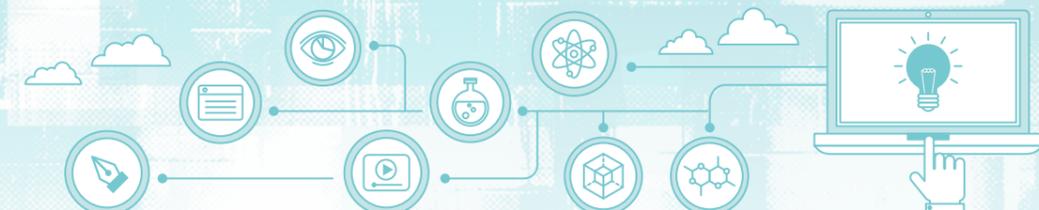
私たちがいま取り組むべきことについて、一緒に考えてみませんか。

ヒントは「創造性」。今、教育の現場に求められる変化とその対応についてご紹介します。詳しくは中面をご覧ください。



デジタル時代を生き抜く力 — 「創造性」 がもたらす教育の未来

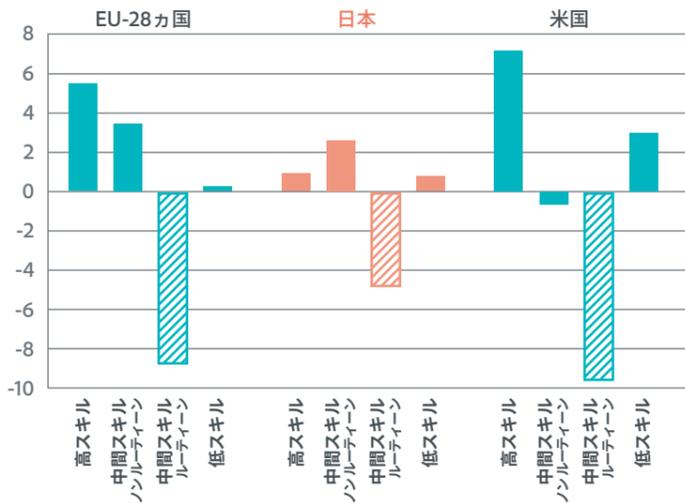
予測不可能な未来に向けて、これから求められるスキル「創造性」と、それを育成するための施策や環境について考察します。



1

二極化する業務

技術革新とグローバル化が進化するなかで、昨今の労働市場においては「業務の二極化」が進んでいます。専門知識や専門の技能を要するいわゆる「高スキル」業務だけでなく、専門知識や技能は必要ではない、機械に置き換えにくい非定型の業務も実は増えています。一方で「中間スキル」にあたる業務は機械化が進み減少傾向が加速しています。人間ならではの創造性・思考力を発揮する仕事、コミュニケーションや個別対応を必要とする仕事で必要とされるスキルを持った人材育成が急務といえるでしょう。



業務の二極化 各スキル業務の雇用の変化 (1995年～2015年) ※「OECD Employment Outlook 2017」より

機械に置き換えられる可能性が高い業務

“

学生にクリエイティブなデジタルツールを持たせ、作品を見る側でなく、生み出す側の役割を与えました。結果、学生の取り組み意欲は高まり、題材について多面的に考え理解が深まるようになりました。

ノースカロライナ大学チャペルヒル校 デジタルイノベーションラボ責任者兼コンポジション・レトリック・デジタルリテラシー担当責任者

ダニエル・アンダーソン氏

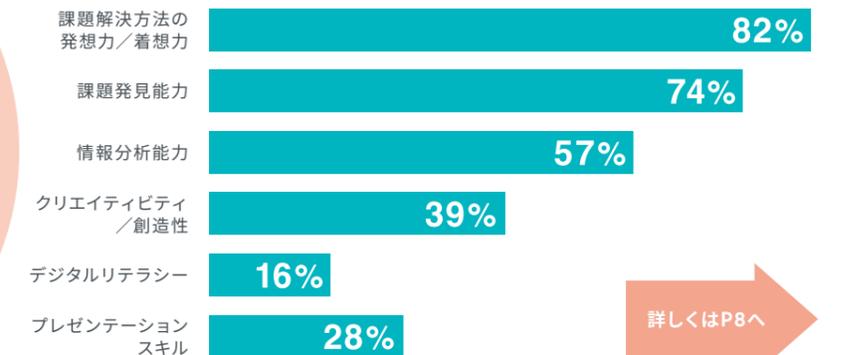
2

求められるスキル

デジタルリテラシーがこれからの社会に不可欠なスキルであることは、言うまでもありません。しかし、単に知識や技能を得るだけでは、近い将来、機械に置き換えられてしまうでしょう。身に付けた知識や技能を活かしつつ、自ら課題を発見し、解決の具体策を生み出す「創造性」が重要となります。現在、新卒採用において多くの企業が重視するスキルが「創造的問題解決能力」です。創造的問題解決とは、創造性に富んだ革新的な方法で問題や課題に取り組む手法のこと。そのために、課題を様々な角度から思考・分析する力（クリティカルシンキング）や、アイデアや考えを人にわかりやすく伝える（表現力）が必要となります。

企業が新卒採用の際に最も重視するスキルは『課題解決方法の発想力/着想力』

新卒採用で重視するスキル（上位3つを選択）



詳しくはP8へ

●2018年6月にアディビが実施したインターネットによるアンケート調査
●日本に所在する企業の人事部所属、新卒採用業務担当者536人を対象に実施
●東証一部上場企業人事担当194人、過去3年間に就職人気ランキングにランクインしたことがある企業137人を含む

“

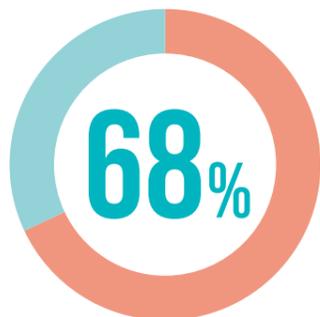
すべての学生はアイデアをもっています。人に伝える機会を見出すことが大事なのです。ツールを提供すればそれが実現できます。

ユタ州教育委員会 教育専門家
アーロン・ボーデル氏

3

創造性を育む環境

学生の主体性や創造性を育む授業スタイルとして、実体験を主体とした学習方法が効果的とされており、既に日本でも多くの学校が採用を開始。学生たちは基本的なオフィスソフトだけでなく、写真加工や動画編集などのソフトも駆使して、積極的に課題解決に取り組んでいます。また、BYODを導入することで、学生は教室授業という限られた時間と空間の中だけでなく、いつでも好きな場所で作業を進めたり、他の人とコミュニケーションをとることができます。昨今注目されている、テレワークやリモートワークへの対応にも有効です。



学生のうち68%は実体験を通じて学ぶことが重要だと考えている

「教室でのZ世代 未来をつくる」より
<http://www.adobeeducate.com/genz/creating-the-future-JAPAN>



大学におけるデジタルリテラシー教育
～米国での最新事情～

資料ダウンロードはこちら

<https://bit.ly/3bBHoiH>



Academicにこそ、Creative Cloudを — 授業や研究での活用例

「人にわかりやすく伝える」デザインの力

デザインとは、装飾的な美しさを求めるものではなく、自分以外の人に「ある情報をわかりやすく伝える」工夫です。日常生活で目にする新聞やTV、お店の看板やメニュー、駅の案内表示、アプリ・webサイトなどは「情報のデザイン」によって顧客やユーザーに、そこで必要な情報をわかりやすく伝えるための工夫がなされています。Academicにおいてもプロジェクト型学修の成果共有やプレゼンテーション、研究論文や研究発表ポスターなど、情報をわかりやすく伝えるべき機会は多くあり、そのような場面で情報デザインを効果的に行えることは非常に大切ではないでしょうか。

クリエイティブツールを学生の力に

情報の伝達だけなら、従来からあるオフィスツールでも基本は十分かもしれません。しかし、「わかりやすく伝える」という観点ではどうでしょう？例えば見やすいグラフや図解、動画、プロタイプなら一目瞭然に伝わります。webページにまとめれば、時間や場所の制約を超えて多くの人に伝えることができます。つまり適切な形（メディア）に情報をデザインする力は、学修内容を実際の社会課題の解決に役立てたり、研究内容に関する理解を広め価値向上を図ったりするためにとても重要なのです。それには従来のオフィスツールだけでは限界があり、まさにAcademic活動にこそクリエイティブツールが必要です。

Creative Cloudは世界中の実社会で最も使われているアプリケーション群です。学修や研究における情報デザインにぜひご活用ください。

情報デザインの力は一生もの

情報デザインは芸術的な才能やセンスではなく、色・形・大きさ・配置などいくつかのデザイン原理に基づいて学び身に付けることができるスキルです。学修や研究活動の文脈で繰り返し取り組みれば必ず身に付き、その先もずっとブラッシュアップできます。「情報をわかりやすく伝える」工夫は、学生の就職後の実社会でも必要とされる場面が多数あり、今後も必要性が高まる一方です。大学時代に、情報デザインの力とデジタルクリエイティブツールを使う力を身に付けることは、これからの時代を生きる学生にとって大変有益といえます。

アドビシステムズ 株式会社
マーケティング本部教育市場部部長
小池 晴子



探究型学修活動

実践的な演習により学生の社会に役立つ経験とスキルを習得

人に伝わるビジュアル表現

学生と社会との結びつきを深めてみませんか。地域の課題を各専攻のアプローチで問題提起したり、海外に向けて研究内容をわかりやすく発信するなど、専攻を問わず、学びを実践につなげることで研究をブラッシュアップすることができます。



Ai イラストやデザイン **Ps** 画像編集

プロトタイピング

アイデアを視覚的にわかりやすく具現化する方法として、プロトタイピングが効果的です。webページやアプリのプロトタイプをプログラミング不要で作成し、簡単に共有することができます。



Xd UI/UXデザイン

動画制作

1分間の動画が伝える情報量は180万語に匹敵すると言われています*。撮影した動画から要点を切り出してまとめ、テロップや効果をつけて完成度を高めることができます。

*Forrester Research/Dr. James McQuiveyの調査から



Pr 映像コンテンツ制作 **Ru** 動画編集 **Ae** 映像効果

写真や動画を制作しビジュアル化する過程で、思考力と表現力が鍛えられます。

社会学の授業で社会風景や、人々の暮らしぶり・生き方に関する写真や動画を撮影し、社会学的な分析・考察を加え、発表するプロジェクトを行っています。ビジュアル化することによって、客観的かつ多面的に考えを深めることができ、発表にまとめる過程では、思考力と表現力が鍛えられます。

また、Creative Cloudを使う過程自体がよい学習の機会になっていると考えています。学生には、Creative Cloudのライセンスを提供し、最初だけ初歩的な使い方を教えますが、自分で学べるチュートリアルを紹介するようにしています。そうすると、自分たちで試行錯誤して作品を制作してきます。自分自身で目的に向かって、物事を達成することでモチベーションがあり、学生にとっても、自信につながっているようです。



日本大学文学部社会学科
後藤 範章 教授

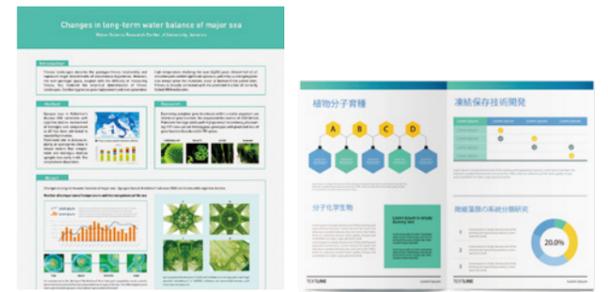
研究・学術

研究の信頼性を高める画像処理、伝わる発表、共同研究者との連携など

研究発表ポスター・論文の作成

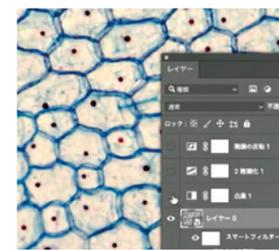
ページ上に研究内容をただ配置するだけでは、見る人の興味を引くことはできません。レイアウト、フォントや色の使い方などを考慮することで、格段に見やすく伝わりやすいポスターに仕上がります。

Ai イラストやデザイン **Ps** 画像編集 **Id** ページデザイン



画像処理

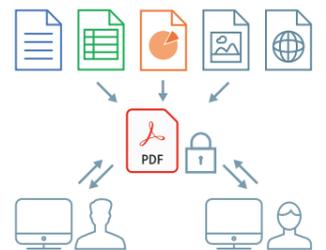
画像から研究上の客観的・定量的なデータを得るには、適切な画像処理が必要です。信頼度が高く、かつ見やすい画像で研究成果を効果的に発信することができます。



Ps 画像編集

文書管理

論文や研究プロジェクトに関する機密文書を強固なセキュリティで保護して管理し、共同研究者や関係者とスムーズに情報の連携をおこなうことができます。



Acrobat PDF作成・編集・共有

動画でご紹介

▼学会・研究発表のポスター作成の基本セミナー

<https://bit.ly/362FLTA>

▼研究系の学生向け画像処理セミナー

<https://bit.ly/366CLMd>



広報・課外授業

デザインやコーディングの知識がなくてもすぐに創作を開始

イベント告知案内グラフィック

学校行事やセミナー、サークル活動の告知案内に。テンプレートを選んでテキストや写真を差し替えるだけで、クオリティの高いポスターやチラシ、SNS用コンテンツなどが簡単に作れます。



Graphic グラフィック制作

研究発表サイト・イベント記録動画

テキストや写真、さらに動画やアニメーションを組み合わせた表現力豊かなwebサイトやスライドショーを、コーディングなしで作成・共有できます。研究発表のまとめやイベントの記録に最適です。



Web webサイト制作 **Animate** 動画・スライドショー制作



学生向け情報サイト「学生生活デジタル化委員会」

アドビツールを使いこなして活躍する学生の声や学生生活でアドビのツールをより簡単に身近に使うための役立つコンテンツを多数紹介

<https://www.adobe-education.com/jp/gakudigi/>

学生の声



Creative Cloud 高等教育機関向けライセンス

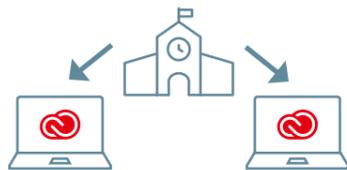
Creative Cloud高等教育機関（大学・専門学校）向けライセンスは、学生・教職員の方々が常に最新のクリエイティブアプリケーションをご利用いただけるサブスクリプション（期間契約型）のライセンス制度です。デバイスライセンス、ユーザー指定ライセンスと用途に応じたプランをご用意しています。いずれも一般・法人向けのプログラムよりもお得な価格でご購入いただけます。

Creative Cloudとは

Creative Cloudは、写真、イラスト、デザイン、ビデオ、Web、UI/UXなど、あらゆる制作に対応する30種類以上のデスクトップおよびモバイルアプリ、フォントなどのサービスが統合されたクリエイティブ環境です。Creative Cloudがあれば、誰でも、どこにいても、想像の赴くままに創作することができます。

BYODにも対応します

ユーザー指定ライセンスなら、学校が所有するライセンスを教職員や学生個人のPCにインストールすることも可能です。



共有PCでも使えます

共有デバイスライセンスなら、PC教室やラーニングコモンズなど複数の利用者が使うPCでも運用可能です。ただしユーザーIDとパスワードによるログインが必要です。



複数年契約できます

PCサイクルに合わせて12ヶ月から最長60ヶ月までご希望の導入期間を選択し、一括前払いでご購入いただけます。条件によって無償セットアップ期間の設定も可能です。



利用できるアプリケーション代表例

デザイン	Webページやアプリ	映像	コミュニケーション
Ps Adobe Photoshop 画像編集	Xd Adobe XD Webページやアプリのデザイン	Pr Adobe Premiere Pro 映像編集	Ac Adobe Acrobat Pro DC PDFの作成・編集
Ai Adobe Illustrator イラストやデザイン	Dw Adobe Dreamweaver Webページ制作	Ru Adobe Premiere Rush マルチデバイスで映像編集	
Id Adobe InDesign ページレイアウトやデザイン	Sp Adobe Spark ビジュアルWebストーリー	※ライセンスの種類により、一部ご利用いただけないサービスやアプリケーションがあります。詳しくはご相談ください。	

Creative Cloud 高等教育機関 導入事例

すでに日本の大学でも、従来の芸術系学部学科にとどまらず、専攻を問わずすべての学生にCreative Cloudを活用してデジタルリテラシーを学ぶ機会を提供する例が増えています。



全学共通の一般教養科目としてデジタルクリエイティブ基礎講座を開講

グローバルに通用する発信型デジタル活用能力の育成

自由な発想を伸ばすICT教育でクリエイティブな学び方を学ぶマインドを育成

リベラルアーツ教育による高度専門職業人の育成

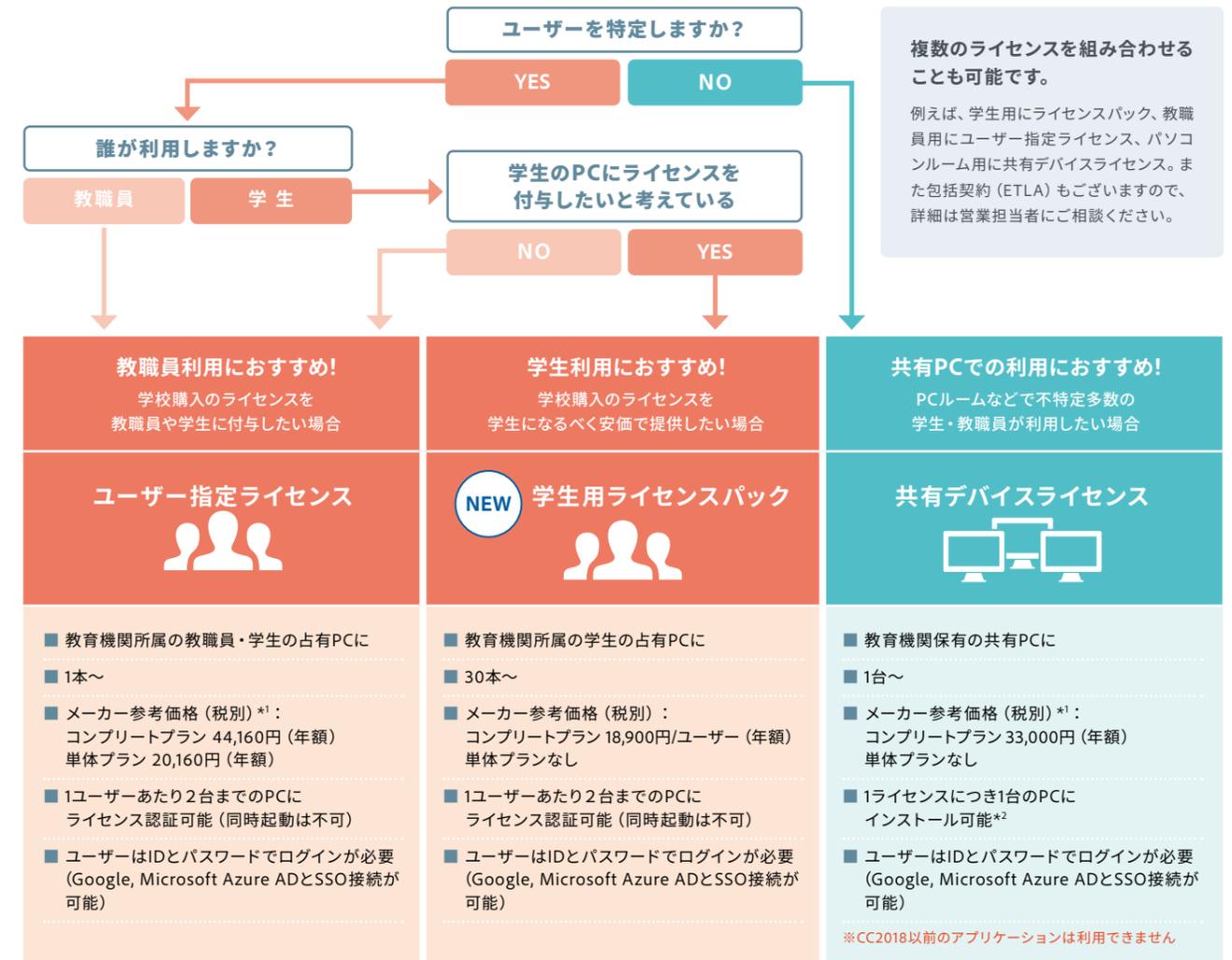
他にも多数の事例掲載中！

Creative Cloud教育機関導入事例について詳しくは ▶ <https://adobe.ly/2ERn2IM>

マークのある事例は動画でご覧いただけます。



貴学に最適なライセンスプランは？



30本～ご購入可能! 学生用ライセンスパックのメリット

- 1ユーザーあたり年間 18,900円* (税別) お得!**
追加費用なくクラウドストレージ50GBが使える!
- 新しいアプリを利用できる**
iPadにも対応したPhotoshopやFrescoなど新しいアプリも利用可能!
- ユーザーの指定や付け替えが可能**
卒業・転校などでユーザーを変更したい場合、ライセンスの付け替えが可能!

* メーカー参考価格の計算上では、ユーザー指定ライセンス13本以上、または学生・教職員個人版 (店頭販売) 16本以上、お使いの場合は学生用ライセンスパック (30本～) の方がお得です。

教育機関向けライセンスに関する資料のご請求および導入に関するご相談・ご質問はこちら
<https://bit.ly/2XfhSL9>

